

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月17日更新

事務事業名		基幹統計調査実施事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	政策部	課長名	澤田 勝矢
	施策	25	行政改革の推進			所属課	企画課	担当者名	宮川 里佳
	基本事業	85	広聴・広報機能の充実			所属班	企画広報班	(内線)	1255
予算科目	会計一般	款2	項5	目2	事業連番11450	法令根拠	統計法	各種調査規則	成果優先度評価結果 : ① コスト削減優先度評価結果 : ⑥
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 26年度で終了 <input type="checkbox"/> 26年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 22 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)					

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	統計法に基づき、市民や事業所等を調査対象として地域別、業種別等に活動状況などを把握し、行政諸施策に活用する。国勢調査や家計調査など現在50調査が基幹統計調査となっている。 これまでは毎年実施される統計調査ごとに事務事業として実施していたが、平成22年度より一本化(対象・意図が同じであるため)して実施している。 主な基幹統計調査は、毎年実施する「学校基本調査」、「労働力調査」、「工業統計調査」、5年ごとに実施する「国勢調査」、「経済センサス」、「農林業センサス」、「就業構造基本調査」、「住宅・土地統計調査」、「商業統計調査」、「社会生活基本調査」などがある。
【業務の流れ】	・調査区設定、市町村説明会への出席 ・指導員や調査員の推薦、事務説明会の開催 ・調査票の整理、審査、県への提出 ・事後報告会への出席など
【主な予算費目】	報酬、職員手当(時間外勤務)、需用費、役務費、使用料及び賃借料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	調査主体が各省庁に分かれているため、似たような項目を複数の調査において聞かれるなどの問題点が指摘されており、「記入者負担の軽減からこれを一本化すべきである。」などの意見がある。 また、市役所で把握していることをなぜ回答しなければいけないのか、と調査に非協力的な市民、事業所も増加傾向にある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO)	① 学校基本調査(5月)・経済センサス及び商業統計調査(7月) 全国消費実態調査(9月、10月、11月)・工業統計(12月)・農林業センサス(2月)	27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) ・学校基本調査(5月)・国勢調査(10月)
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 調査 ア 当該年度に実施される調査数 イ 翌年度実施調査の準備業務を行った調査数	予算の主な増減の理由 最大の基幹統計調査である国勢調査の実施による増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	・基幹統計調査	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) 調査 ア 当該年度に実施される調査数 イ 翌年度実施調査の準備業務を行った調査数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	・一般世帯や事業所の活動状況を明らかにする	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) 調査 ア 当該年度に実施された調査数 イ
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠 調査が問題なく実施されたか把握するため		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	28年度 予定	29年度 見込	30年度 見込
① 活動指標	ア 調査	千円	4	3	5	5	2	3	3	3
	イ 調査	千円	3	1	1	1	1	1	1	1
② 対象指標	ア 調査	千円	4	3	5	5	2	3	3	3
	イ 調査	千円	1	1	1	1	1	1	1	1
③ 成果指標	ア 調査	千円	4	3	5	5	2	3	3	3
	イ	千円								
投資 入 費 量	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円	1,682	3,257	4,417	4,016	19,520	17,000	2,000	2,000
	地方債	千円								
	その他	千円								
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	8	7	65	1,047	124	50	30	30
	(A) 事業費計	千円	1,690	3,264	4,482	5,063	19,644	17,050	2,030	2,030
(A)のうち指定経費	千円	1,375	3,019	3,719	3,704	17,144	0	1,000	1,000	
(A)のうち時間外、特勤	千円	223	159	601	570	1,434	194	200	200	
人件費	正規職員従事人数	人	3	2	6	2	7	7	7	7
	延べ業務時間	時間	972	50	1,000	40	1,500	1,500	1,000	1,000
	(B)人件費計	千円	3,957	199	3,984	159	5,976	5,976	3,984	3,984
	トータルコスト(A)+(B)	千円	5,647	3,463	8,466	5,222	25,620	23,026	6,014	6,014

事務事業名	基幹統計調査実施事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	------------	-----	-----	-----	-----

## 2 評価の部 (SEE)

\*原則は26年度の後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 各種調査が問題なく実施され、県へ調査票の提出ができた。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 基幹統計調査については、国が実施主体となり、時期、やり方等全て決められているため。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 国が実施主体であり、やり方が定められているなかで可能な限り効果的効率的な手段をとっている	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の調査があるが、基幹統計調査として国が定めているため、市において統廃合や連携はできない。	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 県から交付された必要経費の範囲で行なっている。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 最小限の人員で可能な限り効果的効率的な業務を行なっている。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 統計法に基づく基幹統計調査であり公平・公正である。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 役割分担は適さない。	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】

## 3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

国の基幹統計調査のため廃止・休止はできない。効果的で効率的に処理しており、削減・改善の余地はない。  
平成26年度は学校基本調査(5月)・経済センサス及び商業統計(7月)を実施し、全国消費実態調査(9月・10月・11月)・工業統計調査(12月)・農林業センサス(2月)を実施予定である。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

<p>(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(公平性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策</p>																						